

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071400594		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ西新		
所在地 (電話番号)	福岡市早良区城西2丁目9-18 (電話) 092-841-8377		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(H21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 23 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	19.4 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨ルーフィング葺 造り	
	3 階建ての 1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (380,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	3 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	9 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.9 歳	最低 76 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三恵外科、山茶花在宅クリニック、前田歯科クリニック、たけとみクリニック 金隈病院、福岡大学医学部内科第5教室
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、福岡市営地下鉄西新駅や商店街から徒歩10分といった利便性のよい場所に立地している。地域交流として月に1回のリサイクル回収の担当をしたり、自治会主催のバスハイクに入居者と参加したりしている。また、毎月第四土曜日にはホームに子供を招いて伝承遊びをしたり介護教室を開催し、ホームで催し物がある際は案内を回覧板や掲示板を利用し、多くの方に参加を呼びかける等積極的に地域交流を行っていることにより、ホームの役割が地域に浸透し、徘徊ネットワークも構築できてきている。法人全体では「キャリアラダー」という職員が学習やスキルアップを積み重ねながらジェネラリストやマネージャー等を目指せるような仕組みを導入し、人材育成にも力を入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で取り組みを期待したい項目としてあげられた入居者の「写真掲載」の同意の取得状況について、口頭では伝えられていたが書面での同意はなく、改善はみられなかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票の説明が行われた上で、各ユニットで時間を重ねて自己評価票が記載され、それをもとにミーティングで検討が行われ取りまとめが行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は入居者も参加し、二ヶ月に一度の頻度で定期的開催されている。会議ではホームの運営状況や地域行事等についての報告や連絡、意見交換が行われ、現在、入居者とともに地域の「ふれあいサロン」参加について話し合われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族面談や家族会等で家族が意見を表明できる機会を設けている。また、家族が意見を言いやすいように法人本部宛でホームのアンケート調査が実施されたり、職員個々に対するアンケートが実施されホーム運営に家族の意見が反映しやすいような取り組みを行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所への散歩や買い物に行く際に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域のリサイクル回収を月に1回、朝~夕方まで担当するなどして地域住民と交流を行っている。また、自治会のバスハイクに入居者と参加したり、ホーム発行の「西新通信」を近隣に配布している。さらに毎月第四土曜日に地域交流として子供を招いて伝承遊びをしたり介護教室を開催している。ホームでの催し物の案内は回覧板や掲示板を利用して、多くの方に参加してもらえるよう呼びかけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の企業理念で地域社会への貢献、地域福祉の発展への貢献、地域連携等について触れられている。その理念を基盤としたホーム独自のものとして「自分らしく、最後まで・・・」、「新しい家族・・・」といった理念が掲げられ、入居者の尊厳を大切にし、かつ入居者と職員がお互いを認め合い、助け合いながら地域で生活を共にしていくことが謳われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回のミーティングで理念が唱和され、理念について話し合われている。 職員のヒアリングからも理念が理解され、日々の業務で実践に向け取り組まれていることが確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所への散歩や買い物に行く際に近隣の方と挨拶をしたり、地域のリサイクル回収を月に1回、午前9時～午後5時まで終日担当するなどして地域住民と交流を行っている。また、自治会のバスハイクに入居者と参加したり、ホーム発行の「西新通信」を近隣に配布している。さらに毎月第四土曜日に地域交流として子供を招いて伝承遊びをしたり介護教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の説明が行われた上で、各ユニットで時間を重ねて自己評価票が記載され、それをもとにミーティングで検討が行われ取りまとめられた。前回の外部評価で取り組みを期待したい項目としてあげられた入居者の「写真掲載」の同意の取得状況については改善はみられなかった。		写真掲載の同意を「個人情報の利用目的の同意書」に追記される予定とのことで、その取り組みに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者も参加し、二ヶ月に一度の頻度で定期的開催されている。 会議ではホームの運営状況や地域行事等についての報告や連絡、災害時の避難についてなど多くの意見交換が行われている。現在、入居者とともに地域の「ふれあいサロン」参加について話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム所在地の区役所に行事案内やパンフレットを置かせてもらっている。 また、入居者が自宅等に退去した場合の支援等の相談で連携をとることもある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	ホームには成年後見制度を活用されている入居者が1名おられ、職員も権利擁護の研修を法人内外で受ける機会がある。 職員はホームに設置されているパンフレットを用いながらであれば、必要な人に説明が出来る状況にある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等については、ホームで毎月発行している「ふれあい通信」や家族の面会時に詳しく報告している。 緊急時以外はパソコンや携帯へのメールを使用する等、家族への配慮もあり、状況に応じて電話やメール等で連絡を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面談や家族会等で家族が意見を表明できる機会を設けている。また、法人本部でアンケートが回収できるようになっており、ホームについては無記名アンケート調査、担当者については記名アンケート調査を実施するなど、ホーム運営に家族の意見が反映しやすいような取組みを行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動についてはホーム発行のふれあい通信や家族面談、家族会等で報告している。 異動の場合においても利用者へのダメージが少なくなるよう引継ぎは十分に行なわれている。 異動した職員もホームを行き来するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり性別、年齢等で排除されることはない。法人全体で人材育成を目的とした「キャリアラダー」システムを導入し、管理者と目標面接を行いながら職員個々の自己実現が図れるような取組みが行われている。職員の休暇は希望が出せ、リフレッシュとして連休も取れるようシフトを調整している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は法人内外で「人権尊重」に関する研修を受ける機会がある。 最近では「身体拘束」に関わる話し合いのなかで、言葉の抑制について話し合いが行われた。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に加え、人材育成を目的とした「キャリアラダー」システムにより職員が学習やスキルアップを積み重ねながらジェネラリストやマネージャー等を目指す仕組みがある。その過程で管理者による面談等が行われ、段階に応じた職員の教育が行われている。		本制度が導入されて間もないこともあり、今後実績を積み重ねられ、更に充実されることを期待したい。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、月に1回の勉強会に参加し、意見交換を行っている。 事業所持ち回りで開催するため、他の事業所を見学出来、参考にしている。また、近隣の事業所等での勉強会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望がある場合はホームの見学や体験入居、ショートステイを通して本人・ご家族と相談し、本人が納得した上でサービス利用ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から花の植え方や調理の仕方、漬物をつける方法を教えてもらう等、喜怒哀楽をともにしている。 「職員が楽しまないと伝わらない、自分たちの関わり方でレベルが変わってくると思う」と、日々支えあえるような関係を構築するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・入居者本人から詳細な生活歴や習慣、嗜好などの情報収集を行うとともに、入居者との日頃の会話や表情、行動などから本人の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。 また、毎日の申し送りや介護記録、ミーティングで情報を共有し職員間で検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・本人の希望や意向、そして入居者個々のアセスメントの結果を踏まえ、担当者会議の中で十分な検討を行い、入居者本位の介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期(3ヶ月に1度)或いは随時に行われている。 変更が必要な場合は日々の介護記録やケアチェック表(アセスメントとケアの対応について担当以外の職員も記載)をもとに担当者会議を実施し、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族の代わりや家族だけの付き添いでは困難な時に受診に同行したり、入居者・家族の要望により自宅への外泊や外出支援を行うなど、柔軟な支援を行っている。 また、家族が入居者の居室で宿泊される時には、布団を無料で貸し出している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望によるかかりつけ医での受診は可能であるが、原則家族が同行することになっている。 家族が遠方の場合は職員が同行し、受診援助を行っている。 その他に医師の往診が週3～4日、看護師の訪問が毎日のようにあり、適切な医療を受けられる体制にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合あるいは終末期等について家族等に説明を行い同意を得ている。 過去に入居者2名の看取りを行った実績があり、実際に重度化した場合は関係者と話し合いを重ね、方針を共有するよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイル等の記録は各ユニットの鍵のかかる場所に保管されている。 入居者個々の写真の掲載については家族には口頭で了承を得てはいるが、同意書等はない。言葉かけ等については入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮されている。		具体的な改善策が立てられているところであるが、前回外部評価で「取り組みを期待したい項目」として挙げられた項目でもあり、早急な解決が望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大よそ決まってはいるが、その日をどのように過ごすかは個々の入居者と話し合い、本人の希望を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者一人ひとりの摂食・嚥下状況の観察、食事介助をしながら和気あいあいと一緒に食事を楽しんでいる。また、入居者の能力に応じて一人ひとりに声かけをしてメニューを決めるところから始め、準備・片付けも手伝って貰えるよう取り組んでいる。希望がある時は出前をとったり外食に出たりもする。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望に応じ毎日でも可能である。 午後からが入浴の時間帯となっており、夕食の後でも入浴は可能である。 入居者の要望により入浴剤も利用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの希望や趣味・嗜好、能力等、今までやってきたものを活かしながら調理の準備・片付け、買い物、園芸、掃除、ホーム発行の「西新通信」の近隣への配布などをしていただき、日々楽しめるように支援を行っている。また、ティータイムには種類の飲み物から好きなものを選べるようになっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム近隣や公園に散歩に出かけたり、庭のバーゴラの下で茶話会をしたり、菜園作業をする等して戸外に出る機会が増えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は玄関に鍵をかける事の弊害を十分理解しており、目配り・気配り、そしてセンサーの設置により日中は玄関に鍵をかけないよう取り組んでいる。また、入居者が一人で外出された場合に備え、近隣の店舗等にホームに連絡を入れてもらえるような体制を構築し、実際に協力していただいている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回実施され、そのうちの1回は夜間も想定して実施されている。災害の際は地域住民や近隣の企業等からも支援が受けられる体制が整えられている。また、災害時の備蓄品も用意されている。		火災等が起こった際、地域の方々にどのような役割を期待するのか明確にし、火災等の現場で協力が得られるために消防訓練等も一緒に実施されることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事量、水分量は概ね把握されている。食事の内容や栄養バランス等については食事委員会で検討されたり、近隣施設の栄養士に相談する他、いきいきセンターの保健師のアドバイスをもらう等している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり	共有空間は不快な音や臭いは特になく、リビングはクリスマスツリーなど季節のもので飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
32	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階では小型犬が飼われており、入居者の心を和ませている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には入居者個々に仏壇や写真・絵など馴染みのある家具や品物が飾られ、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			